

1 定住対策



▶ 町補助金を活用し移住定住を促進。▶ 国道4号拡幅事業の促進、町道野田・前野線等の道路改良整備を実施。▶ 田園バスを含めた全体的な利用の検討。▶ 水道事業の健全運営に係る計画策定。▶ 自主防災組織等への防災研修会の開催。▶ 胆沢川洪水浸水想定区域の指定による新防災マップの作成。▶ 消費生活の啓発活動や相談体制の充実など。

2 産業振興



▶ ほ場整備の推進。▶ スマート農業技術導入による経営規模拡大支援。▶ 新規就農者の確保支援。▶ 自動車・半導体関連企業の事業展開・規模拡大の支援。▶ 町有工業用地の整備や民間開発の誘導。▶ 工業用地確保と物流・IT関連企業への誘致活動展開。▶ 「北東北デスティネーションキャンペーン」開催。▶ 新型コロナ対策における事業者、雇用者への支援。

3 子育て支援



▶ 在宅子育て応援金、小児インフルエンザ、おたふくかぜの任意予防接種費用等の助成。▶ 18歳までの保険診療自己負担分の全額助成。▶ 保育料、副食費の第3子無償化。▶ 認可外保育施設やファミリー・サポート・センターの利用助成。▶ 子ども家庭総合支援拠点事業の推進、子育て関連諸手続きワンストップ対応の検討。

4 健康増進・福祉



▶ 妊産婦応援給付金、妊婦宿泊費等の助成。▶ 健幸ポイント事業の促進、健幸アンバサダー養成。▶ 新型コロナワクチン接種対応の推進。▶ 金ヶ崎診療所に呼吸器内科を開設、婦人科診療日を増加。▶ 地域福祉を担う人材育成や地域環境づくり、成年後見制度の体制整備。▶ 障がいのある人も安心して生活できる環境づくり。▶ 介護保険料金額の維持、介護予防教室の運営と通いの場の支援。

5 教育・文化



▶ 地域や幼稚園の特色を生かした幼児期教育の推進。▶ プログラミング・ICT教育の推進。▶ 英語指導助手の配置やイベント等の開催。▶ 地域課題の解決につながる学習機会の提供。▶ 金ヶ崎ミライラボ事業の推進。▶ 自治会の諸行事等の見直しの検討。▶ 生涯を通じてスポーツと触れ合う機会の提供。▶ 読書活動・企画テーマの取り組みの推進。▶ 町内文化財について保護の方向性を検討。

このように、以上の取り組みに加え、除雪に対する住民の苦情を真摯に受け止め、除雪作業の円滑化を推進するため、雪対策室を設置し、改善策を講じてまいります。併せて、昨年度導入した県との交換除雪や除雪機械管理システムを継続し、除雪作業に必要な機械の計画的導入・更新を検討してまいります。

また、子育て支援を充実し、若者の町内定住・移住を促進するため、小中学校給食費の無償化の実現に向け取り組みを進めてまいります。

これらの新たな行政需要に対処しながら、持続可能な行政運営を行うためには、産業の振興、定住促進による税収増や、ふるさと応援寄附事業の一層の推進に引き続き力を入れる必要があります。

同時に、事務事業の総点検を実施し、効率的・効果的な行政運営と安定した財政基盤の維持が必要です。改めて、事務事業の目的は何か、手法は今のままで良いか等を点検し、業務の整理整頓に取り組みしてまいります。

さらに、苦情やクレームといわれるものは、大切にすべき市民の要望であり貴重な意見です。市民の声に真摯に向き合い、課題の改善、軽減、解消へつなげることで「住みやすさ日本一」のまちづくりに挑戦してまいります。

まとめ

令和4年度 金ヶ崎町 施政方針



全文はこちら

町議会4月臨時会で高橋寛寿町長が示した本年度の施政方針の概要を紹介いたします。

はじめに（施政方針から抜粋）

新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会状況・経済活動等、依然として厳しい状況が続いております。市民の皆様には引き続き、徹底した感染予防対策を継続いただきますようお願い申し上げます。

さて、日本の総人口は、平成20年の1億2808万人をピークに、平成23年以降減少に転じ、令和3年10月1日現在、1億2550万2千人になっており、今後も減少が見込まれております。

また、平成9年に子どもの数が高齢者の数を下回り、少子化の一方で高齢化が進展する「少子高齢化社会」を迎えております。

当町においては、昭和30年の1万7112人をピークに昭和50年代半ばまで減少が続いておりました。当時、日本の人口が増加している中でも、当町の人口は減少を続けておりましたのは、まちに働く場が少なく、市民は町外、県外に仕事を求め、仕事のある地域に定住したことによると考えられております。このため、先人は工業団地、住宅団地を造成し企業誘致に奔走し、働く場の創出に努めてきました。その結果、昭和55年に大手企業の工場が、岩手中部（金ヶ崎）工業団地

に操業して以降、雇用の拡大に伴い人口が増加しはじめました。

このことは、まちの人口動向は国の人口動向に連動するものではないことを示しております。人口減少が続く現状にストップをかけることは簡単ではありませんが、私は、この人口減少に歯止めをかけるため「住みやすさ日本一」のまちづくりに挑戦いたします。

人口が減少しない活力のあるまちを築くためには、住みやすくなるのが大切です。働く場をつくり、定住する場所を整え、これまで、高校を卒業すると県外等に移り住み、そのまま故郷に戻ってこなかった若者たちが、金ヶ崎に戻りたいと思うような魅力のあるまちづくりに取り組めます。

第十一次金ヶ崎町総合計画の基本的目標も、住みやすいまちをつくり、人口減少に歯止めをかけようとする内容であると思われま。

このような考えのもと、第十一次金ヶ崎町総合計画の目標を実現するため、今回の肉付け予算を含め、令和4年度予算を一般会計92億3361万7千円、特別・企業会計56億6975万3千円、総額149億337万円でしました。